

3 適正配置を進めるに当たっての留意事項

学校の再編は、次のことに留意しながら進めます。

■配置バランス

児童生徒の居住分布に応じたバランスの取れた学校配置を進めます。

■通学時の安全確保

通学時の安全確保や、体力的・精神的な負担を念頭に、通学距離及び通学手段を考慮した学校配置を進めます。

■校舎の安全確保

児童生徒の安全を第一に、耐震補強や老朽化対策などの整備が必要な学校は優先的に検討します。

■児童生徒への配慮

学習・生活環境、教職員との関係等の変化に伴う児童生徒の不安等の軽減に努めます。

■地域への配慮

地域住民の十分な理解と協力が得られるように丁寧に検討を進めます。

■中里小・中学校について

中里地区の地理的特性を踏まえ、また、児童生徒に多様な学習環境を提供するため、現状を維持しつつ、より良い環境づくりを個別に検討します。

■学校の新たな「かたち」づくり

「地域とともにある学校づくり」や「小中連携強化のための体制づくり」に努めます。



4 再編計画の策定

日上市が目指す学校規模を維持・確保することを目標に、本方針に基づいて、小・中学校再編の全体像と、今後おおむね10年間の取組を示す「(仮称)日上市立学校再編計画」を策定します。

日上市教育委員会学務課 学校適正配置推進室

〒317-8601日上市助川町1-1-1 TEL 0294(22)3111 内線645

子どものための環境づくりを ～市民とともに～



日上市立学校適正配置基本方針 (概要版)

1 検討の背景

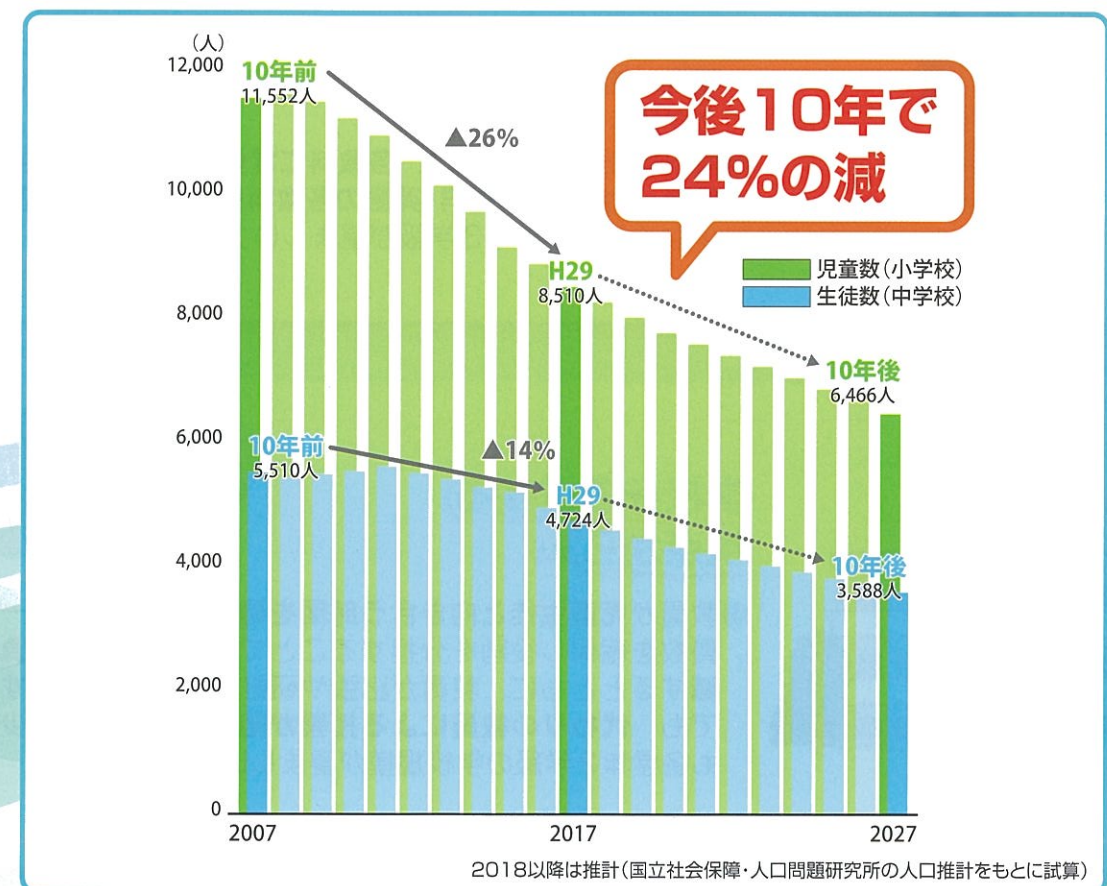
近年、人口減少や少子化を背景に、小・中学校において児童生徒数や学級数が減少する学校の小規模化が進行しています。

義務教育の9年間は、大人へと成長する、或いは、人としての土台を作る大切な時期であり、児童生徒が知識や学力だけでなく、コミュニケーション能力や多様な価値観、社会性、豊かな人間性などをバランスよく身に付けることが重要です。

学校の小規模化には、教員の目が行き届き指導が充実するなどの良い面がある一方で、人間関係が固定しやすく、子ども同士の幅広い交流や多様な意見に触れる機会が少なくなるなど、様々な課題も指摘されています。

日上市においても、「学習環境の基盤となる学校の適正規模の維持」という課題に直面しています。

日上市の児童生徒数



2 学校規模

学校は、児童生徒の確かな学び、豊かな心、そして健やかな体を育む教育の基盤です。児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では、一定の児童生徒数が確保されていることが望ましいと考えます。

また、教育機会均等の視点から、学校は、同程度の規模を目指す必要があります。小規模校ならではの良い面も大切にしながら、課題に対し、学校の役割が十分に発揮できるように、以下の視点から望ましい学校の規模を検討しました。



社会性を育む視点から…

学校で学ぶことは教科書だけじゃない！

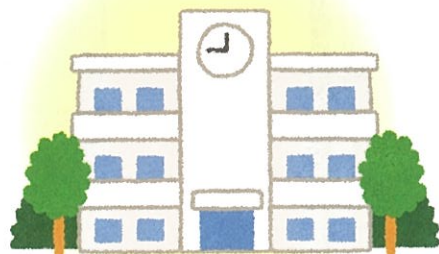
- 児童生徒が幅広い人間関係の中で、互いに学び成長できるよう、クラス替えができる学校規模が望ましい。
- 中学校では、部活動を中心とした課外活動で得られる達成感や社会性も重要であるため生徒のニーズに応じた多様な課外活動ができる学校規模が望ましい。
- 中学校卒業後の様々な環境下で新たな人間関係を築く力の育成のために、より多くの人と関わるのが重要との視点から、各学年の人数又は学級数が小学校よりも多い方が望ましい。



指導体制を充実する視点から…

教員も切磋琢磨で授業力UP！

- 学級担任制の小学校は、同学年の学級間で教員同士が相談、研究、協力ができる、少なくとも各学年2学級を確保することが望ましい。
- 教科担任制の中学校は、各教科に常勤教員を配置でき、かつ、国語・社会・数学・理科・英語の各教科に複数教員を配置できる、少なくとも各学年3学級が望ましい。



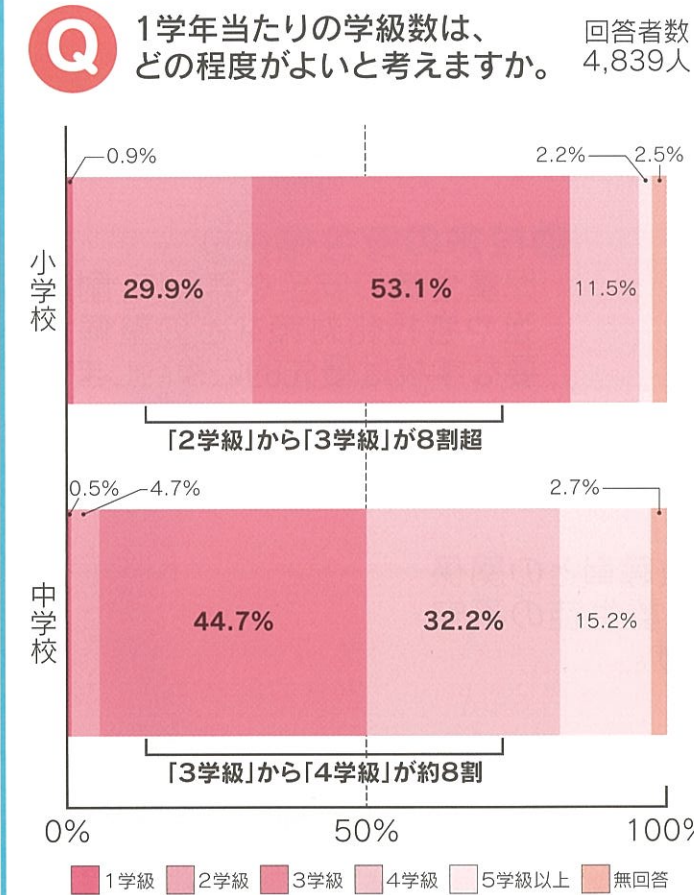
学校を運営する視点から…

「この頃、元気ないね？」
「先生、あのね…」

- 教員が児童生徒と向き合う時間を確保できるよう、一定の教員数を確保し役割を分担することで教員一人が担う負担を軽減するとともに、教員が出張や研修で学校を不在にする場合でも、代替りの教員による授業が組みやすいよう、少なくとも各学年2学級の学校規模が望ましい。

皆さんのご意見は…

- * 学校の規模について、1学年当たり小学校は2～3学級、中学校は3～4学級がよい
- * 学校は一定の規模が必要、学級の人数は少ない方がよい



学級数が多いメリットは…

- クラス替えにより幅広い人間関係ができる
- 社会性や協調性を養う機会が増える
- クラブ活動や部活動の選択の幅が広がる
- 3クラスあるが、運動会などの行事がより楽しい

学級数が多いデメリットは…

- 人数が多すぎて、行事をよく見ることができない
- 勉強や部活で、もっと一人一人を見てほしい

学級の人数が少ないメリットは…

- 教員の目が一人一人の児童生徒に行き届く
- 1学級30人程度だと、個に応じた指導と競争も取り入れた意欲の高い授業、学級経営ができる

学級の人数が少ないデメリットは…

- 1学級20人程度では、少なすぎて早い段階から役割が決まってしまう、子ども同士も決めてしまっている様子で残念
- 多様な考え方や学び合いが難しい
- 生徒の役割が多く、忙しそう

(「小中学校の適正配置に関する意識調査」の回答から)

「子どものための環境づくりを ～市民とともに～」を基本理念として、本市が目指す学校規模を次のとおりとします。

目指す学校規模

- 小学校** クラス替えができる各学年2学級以上
- 中学校** クラス替えができ、かつ、国語、社会、数学、理科、英語に複数教員が配置できる各学年3学級以上